

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 2 年 9 月 10 日 (2020.9.10)

【公表番号】特表 2020-503999 (P2020-503999A)
【公表日】令和 2 年 2 月 6 日 (2020.2.6)
【年通号数】公開・登録公報 2020-005
【出願番号】特願 2019-559267 (P2019-559267)
【国際特許分類】

A 6 1 M 25/098 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/098

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 29 日 (2020.7.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

弾性の細長いシャフト、および軸方向に互いに間隔を空け前記細長いシャフトの外側表面に固定された複数の放射線不透過性マーカー、を備える内側部材であって、複数の放射線不透過性マーカーの範囲が前記内側部材の第 1 の部分を画定する、内側部材と

前記内側部材の少なくとも前記第 1 の部分に沿って前記細長いシャフトの周囲にぴったりとかつ直接接触して配置されている外側部材と、を備えるサイジングカテーテル。

【請求項 2】

前記外側部材の厚さが 0 . 2 5 4 m m (0 . 0 1 インチ) 未満である、請求項 1 に記載のカテーテル。

【請求項 3】

前記細長いシャフトは前記外側部材の前記厚さの少なくとも 3 倍の壁厚を備える、請求項 2 に記載のカテーテル。

【請求項 4】

前記細長いシャフトおよび前記外側部材はポリマー材料を含む、請求項 1 に記載のカテーテル。

【請求項 5】

前記細長いシャフトは放射線不透過性材料を含む、請求項 1 に記載のカテーテル。

【請求項 6】

隣接する放射線不透過性マーカー間の距離が均一であり、6 . 3 5 m m (0 . 2 5 インチ) から 2 5 . 4 m m (1 . 0 インチ) の間である、請求項 1 に記載のカテーテル。

【請求項 7】

前記細長いシャフトの遠位端が、前記外側部材の遠位端よりも更に遠位方向に延びる第 2 の部分を備える、請求項 1 に記載のカテーテル。

【請求項 8】

前記第 2 の部分は次第に減少する壁厚を含む、請求項 7 に記載のカテーテル。

【請求項 9】

前記細長いシャフトの前記第 2 の部分の遠位端は、前記サイジングカテーテルの遠位端を画定する、請求項 7 に記載のカテーテル。

【請求項 10】

前記細長いシャフトは、前記細長いシャフトを通して延びる管腔を備える、請求項 1 に記載のカテーテル。

【請求項 1 1】

最遠位の前記放射線不透過性マーカーは、前記細長いシャフトの遠位端から 5 . 0 8 m m (0 . 2 インチ) 未満にある遠位端を有する、請求項 1 に記載のカテーテル。

【請求項 1 2】

前記外側部材は、前記カテーテルの近位領域で歪み緩和部材の内部に配置されている、請求項 1 に記載のカテーテル。

【請求項 1 3】

前記細長いシャフトは、前記外側部材の厚さより大きい厚さを有する、請求項 1 に記載のカテーテル。

【請求項 1 4】

前記細長いシャフトの厚さは、0 . 2 0 3 2 m m (0 . 0 0 8 インチ) から 0 . 3 0 4 8 m m (0 . 0 1 2 インチ) の間である、請求項 1 3 に記載のカテーテル。

【請求項 1 5】

前記外側部材の厚さは、0 . 0 2 0 3 2 m m (0 . 0 0 0 8 インチ) から 0 . 0 3 0 4 8 m m (0 . 0 0 1 2 インチ) の間である、請求項 1 3 に記載のカテーテル。